

民主化闘争情報

No. 839
2011年10月19日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR北労組が自動車支部、札幌支部で連続して組織拡大を果たした。石勝線脱線炎上事故以降も非常識な対応に終始する北鉄労とは今こそ訣別の時だ！

JR北労組に北鉄労から2名の青年が加入！ 事故以降も非常識な対応に終始する北鉄労と訣別しよう！

JR北労組は10月14日、自動車支部で28歳の青年の加入を勝ちとった。自動車支部では7月に続く組織拡大となるが、新しい仲間が増えるたびに、楽しく明るい作業環境が創られ、JR北労組の運動に魅力と共感が拡がり、加入の流れが定着しつつある。そして10月18日には、自動車支部に続いて、札幌支部でも組織拡大を果たした。

今回、北鉄労と訣別し、JR北労組に加入したのは札幌車掌所に赴任してきたばかりの川東祥平さん(21歳)と日野原伸幸さん(20歳)だ。二人は、研修期間中にJR北労組への加入を決意し、札幌車掌所への赴任と同時に加入に至った。

JR北労組は、北鉄労組合員に対して、「JR北海道の民主化、働きやすく楽しい職場づくりを、JR北労組に加入して共に取り組みましょう！」と訴えている。

国交省に報告したにも関わらず、なぜか社員へ配布されていない「救護ワッペン」！

JR北海道では、運転職場にアルコール検知器を配備し、乗務前の点呼時に検査をするよう呼びかけてきたが、北鉄労は「実施は強制ではない」として、組合役員を中心に、組織的に検査を拒否している状態が続いている。JR各社で、アルコール検知器を義務化していないのはJR北海道だけであるにも関わらず、未だに同社は見直そうとしていない。

また、同社は、5月の石勝線脱線炎上事故を受けて、国土交通省から出された事業改善命令に対する報告書の中で、「社員が列車に乗り合わせた際に積極的に乗務員に対して協力支援できるように、避難誘導時等に使用する「救護ワッペン」を作成し、全社員に配布します」としているが、未だに配布されていない。

迅速かつ適切な避難誘導を行うための改善点として、各種マニュアルの見直しや設備等の充実が図られている中、なぜか「救護ワッペン」の配布が取り残されている。財政的な問題なのか、それとも何か障害になっている問題でもあるのだろうか。余談だが、JR西日本では、福知山線脱線事故を教訓に、同様のワッペンを全社員へ配布したが、JR総連傘下のJR西労は受け取りを拒否しているとのことである。

JR北海道小池会長がアルコール検査問題で「あるべき姿に持って行きたい」と言明！

10月18日、第49回JR連合国会議員懇談会が衆議院第2議員会館で開催された。今回の懇談会には、JR三島・貨物各社の経営幹部が出席し、税制特例措置問題について各社からヒアリングを受けた。

質疑応答で伴野豊衆議院議員は、「JR北海道の中島社長の死は同じ鉄道員として痛恨の極みである。自殺の背景には労使関係の問題もあると聞いている。JR北海道の労政の姿勢について伺いたい」と質問した。これに対し、JR北海道の小池明夫会長は「中島社長の死の真相については測りかねる。人の奥底にあるものは分からないものだ。アルコール検知器による検査については、ねばり強く、できるだけ早く、あるべき姿に持って行きたい」と言明した。さらに、高木義明衆議院議員、岩本司参議院議員からも同趣旨の質問がされたように、JR東日本のみならずJR北海道、JR貨物の労政問題は各議員の大きな関心事となっている。

国が株主である特殊会社としてのJR北海道、JR貨物は、健全な労使関係の育成に努めるべきである。